

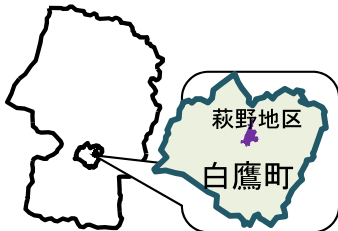
【萩野地区】基盤整備を契機とした、荒廃農地再生による醸造用ブドウ栽培と企業マッチングによる地域の活性化

しらかまち
〔山形県白鷹町〕

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
農福連携	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他

1. 地域農業の状況

○ 白鷹町は、山形県の南部に位置し、町の東部は白鷹丘陵、西部は朝日山系、中央を最上川が流れる、自然に恵まれた地域である。



○ 最上川沿いには豊かな田園地帯が広がり、稲作を中心にりんごやトマト等の園芸作物のほか、酪農による複合経営が行われている。
また、県花紅花を原料とする紅餅、すり花、乱花の生産量が全国シェア6割を超える全国一の生産地である。紅餅、すり花は、本紅や染料の原料になることから、白鷹町は「日本の紅(あか)をつくる町」として全国に発信している。

○ 本件の取組が行われた萩野地区は、かつて養蚕、葉たばこ、ホップの生産が盛んな地域であったが、養蚕業の衰退等により、近年荒廃農地が拡大していた。



白鷹町萩野地区



整備前の萩野地区（畑地部）
（木が生い茂っているところが荒廃農地）

整備中の状況
（手前は醸造用ぶどう栽培の実証ほ）

2. 地区概要

取組主体	農事組合法人 山形ホワイトイーグルス
再生面積	3.72ha
作付作物	醸造用ブドウ

地区名	萩野（はぎの）地区
取組年次	平成25年度～現在
販路	サントリーに出荷

3. 取組内容及び効果

基盤整備による荒廃農地再生及び農地集積とともに、醸造用ブドウ栽培で地域を活性化

○ 萩野地区では、基盤整備実施と併せて地域住民によるワークショップを開催し、地域の課題の共有と対応策について話し合い、そこで出された提案を基に、担い手への農地集積と高生産性作物の導入を図った。

◆醸造用ブドウの導入

○ 地域の農業後継者を育成し、持続可能な地域づくりを目指して結成された組織である「ホワイトイーグルス」と醸造用ブドウの試験ほ場を求めているサントリーとがマッチングし、平成25年度に耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して、荒廃農地0.32haを再生し、醸造用ブドウを試験栽培。平成26年度からは、農業競争力強化農地整備事業を活用して、試験栽培地に隣接する荒廃農地3.4haを再生。

○ 平成28年度には試験栽培したブドウで仕込んだ赤ワイン「白鷹山麗萩野産マスカット・ベリーA 紅(あか)2016」を初出荷。



◆基盤整備による醸造用ブドウの生産団地化

○ 平成29年度からは、試験栽培地に隣接する再生農地(3.4ha)で醸造用ブドウを本格的に栽培開始。令和元年に収穫。



土壌改良や道水路の整備でブドウ栽培に適した環境を造成



石礫除去及び珪藻土による保水性と通気性、排水性の向上



基盤整備を実施したほ場でブドウ栽培を開始

◆生産組織(法人)の設立

○ 平成27年度に「農事組合法人山形ホワイトイーグルス」として法人化し、持続的な経営体として営農体制を確立。

活用した支援策	H26～H30 農業競争力強化農地整備事業 耕作放棄地型(国)、H29 産地パワーアップ事業(国) H25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(平成30年度までの事業)
---------	---